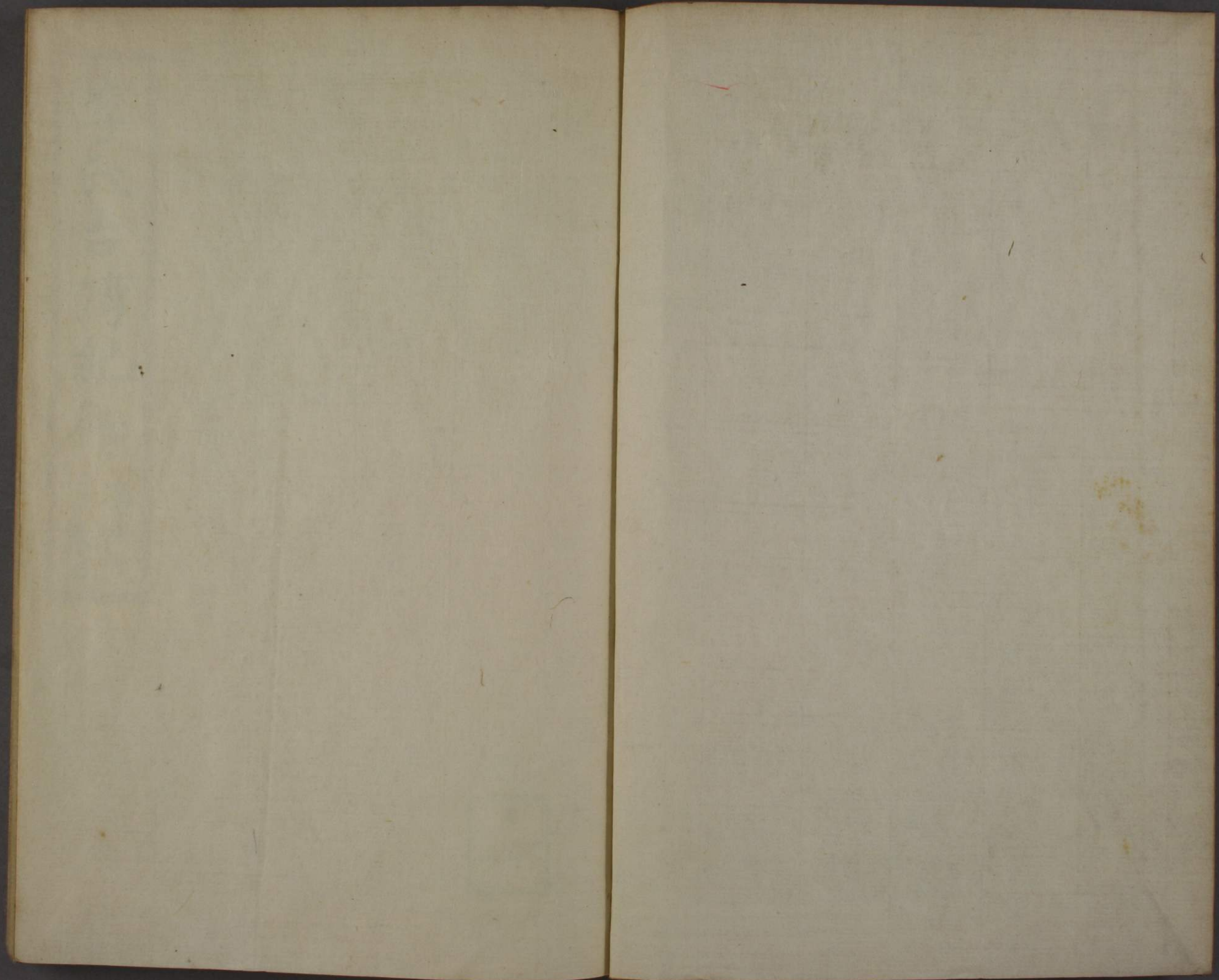


李氏臺灣紀行

李氏
卷十一

ル 4
1276





李氏台灣紀行

卷十一
零本

8
1.270

明
冊
卷
1276

李氏臺灣紀行卷十一

第廿四回

日本ニテ臺灣蕃地所有ノ權ヲ執ルノ
理アリヤ否



明治三十九年六月一日
李氏臺灣紀行卷十一
第廿四回

前章ニハ清国ニテ臺灣蕃地ニ權ヲ及ホスルハ
重キニ特別ニシテ尙才偶然ノ權アルト且各
文明ノ国々又ハ其中ノ一國ニテ最關係ノ深キ
モノニテ此等ノ權ヲ執ルヘキヲ示シ且ツ支那
ハ其惡意ヲ有セルト脆弱ナルト及怠惰トニ因
テ此權ヲ行フヲ能セサリシ故此乃チ自ラ棄テ

タルナリト云フヲ明証セリ
事實斯ノ如クナル故モシ臺蕃ヲシテ文明仁慈
ノ道ニ化育セシメントナラハ日本ノ外誰カ之
ニ適當ニシテ且ツ支那ニ代ルモノアランヤ臺
灣ハ軍略上ヨリシテ云ハンニモ大ニ樞要ノ地
ナリ而シテ之ヲ所有スルニ於テハ中立ナル日
本ニ於テ誰カ之ヲ嚇カスモノアランヤ
臺灣ハ都古島ノ邊隅ニ於テ殆ント日本帝國ト
接近セリ此ニ因テモ西洋ノ一國ヨリ蕃民ヲ平
撫スルヲ名トシテ此島ニ寄ルコトアラハ大ニ

日本ノ不都合ナルヘシ
若シ又臺灣ノ蕃民ヲ支那カ又ハ日本ニテ平撫
スルコトモナリ又ハ征服シテ遺類ヲ絶ツトモ
ナキ時ハ世ノ患害實ニ究マリナカラシ然ルニ
今マ支那此業ヲ怠ルニ於テハ日本必ス自ラ行
ヒ且ツ自ラ防禦ノ計ヲナサ、ルヘカラス日本
山林之部落ニ住スル兵士ヲ以テ蕃民ヲ伐ツハ
殊ニ相當ノ事業ト云フサルヲ得ス茲ニオイト
唯考フヘキトハ支那カ此權ヲ實ニ棄却シタル
ヤ否ノ問ナリ予カ思考スル所ニテハ一點ノ疑

モ此間ニ存スルナシトスルナリイカントナレ
ハ支那ハ此地ヲ所領セン^{ナキ}ノミナラス島
中支那部ヲ征服セシ以來正シク政令ヲ布キ及
ホスノ意ヲ示セシ^テ更ニナシ加之ニ接スル
ヤ外国ノ如ク又無人ノ地ノ如クナリシ其政府
ノ免許ヲ得テ發行セル書ノ内ニ臺蕃ノ地ハ政
府ノ權外ナル^トヲ判然記載セリ清国ノ^{バル}
ブツク^又ハ職員録中ヲ閱スルニ此地ヲ治ム
ル官員等ノ見ヘタルナシ
千八百六十七年ロ^ーウル号船一件談判ノ^トニ

付予カ酋長等ト應接セシ^キ臺灣知府事ヨリ予
ヘ宛タル書翰中ニ左ノ明言ヲ記セリ云ハク
米清余約第十一条及十三条ニ清国皇帝權内
ノ地海上ニ於テモ陸地ニ於テモ米国人ヲ苦
シメル者アラハ清国文武ノ官員カヲ竭シテ
之ヲ罰スヘシトアリ然ルニ此ロ^ーウル船ノ
一件ニ於テハ米国人更ニ清国ノ領地ニ於テ
殺害サレタルニ非ス則野蕃人等ノ有セル地
方ニ於テセリ故ニ条約面通ニ補償ヲ請フヘ
カラス若シ我カ政權之ニ及ハ、悦ンテ此罪

人ヲ罰シテ以テ外交ヲ全フスヘシ然シ十カ
ラ野蕃ノ地ハ元ヨリ政權ノ内ニ非サルナリ

註 李仙得氏ノ著ハシタル「ハウトデイル

ウイッチヤイト号スル書ノ百三十八葉ト

千八百七十一年米國々務卿ノ内外高務報

告書百六十六葉ヲ看ルヘシ

此后ニ清國ヨリ兵士ヲ蕃地ニ送りタルヲハア
リタレト

註 千八百六十七年九月十日百七十一葉ヨリ

二百五十七葉ニ至ル
此ニ書名ヲ掲示セス誤者思フニ
前ノ國務々ノ報告書ナルヘシ ヲ看

ルヘシ

是ハ清國士官ヨリ蕃地ノ交際ニ関セル申立ニ
因テセンヲニハ非ス此出兵ノヲヲ記シタル書
ニ拠ルニ蕃地ノ清政府ノ威權ヲ立ルノ主意ニ
非及シテ前ニ見ヘタル鎮臺ノ書翰中ニ述ヘタ
ル如ク唯米國トノ交誼ヲ保ツアルノ之而シテ
自國近傍ニ許多ノ軍勢ヲ上陸セシムルノ不都
合ヲ避ルノ意ナリ

註 千八百六十七年及八年ノ合衆国外交文書
支那ノ部第四百九十八葉ヲ見ルヘシ

清国將軍ノナシタル總ヘテノ所分ニ付テ其実
ヲ云フキハ唯米國領事タル予ニ對シテ惠情ヲ
与ヘタルニ過キス

清国政府ハ政權ノ是ラサルヲ辞トシテ拒絶シ
タルニヨリ且ツハ米政府ノ命ニ因リ予ハ肝要
ナリト思惟シタルニ因リ米人ノ殺害セラレタ
ル情由ヲ究査シ且ツ全様ナル禍害ノ再ヒ起ラ
サル様処分スル為ニ予ハ唯一人ニシテ「トキト
ク」^{人名}ノ領地ヘ赴キタリ

此等ノ処置ヲ予ハ清国人ノ眼前ニテ為シ畢レ

リ

註 千八百六十八年ヨリ九年ニ至ル米国外交
文書五百五葉ヨリ五百十葉支那ノ部ヲ着
ルヘシ

予カ清国ヘ歸リシ后ニ於テ臺灣ヲ管轄スル福
建ノ總督左ノ廻文ヲ尅シタリ云ク

今度米國領事ハ蕃人ノ長タルトキトクト凡
ソ難ニ遇フタル外国船ノ挿用スヘキ旗号一
種ヲ互約セシニ因リ臺灣近傍ニテ遇難ノ船
此旗ヲ掲示スル片ハ蕃人等カヲ竭シテ助カ

スヘシ尤外国高船ヨリ無用ノ人々蕃地ニ上
陸シテ蕃人ヨリ殺害サレ又ハ庶民ノ扱ヲ受
ル事アルトモ酋長其責ニ任セサルヘシト之
ニ因テ該領事ハ此旗号ノ唯難ニ過ラタル高
船ニ限ル旨ヲ約諾セリ

此ノ公告書ハ合衆国ヨリハ歐羅巴ノ新聞帑上
ニテ公告サ英国ニテハ清国在駐ノ各領事ヘ回
文ヲ以テ通達セリ

此總督ノ公文中ニ尤モ注意スヘキ一事アリソ
ハ予ヲ警衛セシ兵卒ヲ指揮シタル劉將軍ノ事

ヲ述ヘタリヤ否何ノ為ニ之ヲ述ヘサルヤ米領
事ト結約セシ蕃人等ニ清国ノ權力相及ハサル
カ故ナリ若シ仮リニ此權力相及フトセバ結約
ハ必ス清国士官ノ現ニ結約ノ場ニ在リシ人ノ
手ニナリテ米領事ニハ非ル筈ナリ

此結約ハ千八百六十七年ニ成レリ而シテ又タ
千八百六十九年第二月廿八日ニ於テ再ヒ保証
サレタリ此時モ又清国士官ノ手ニ非ラスシテ
予カ手ニ成レリ
此約書上ニ兩人ノ保証人アリ

註千八百六十九年米國商務報告書中廈門臺

灣在勤米領事ノ報告書ヲ看ルヘシ

其一人ハ英國人今一人ハ清國士官マン氏ニテ
此人自カラ臺灣南部ノ税関長ト記署セリ

茲ニ於テ若シ清國彼ノ蕃地ニ政權及フト称セ
シナラバ彼ノ管下ノ土地ノ尺寸ヲモ明記スヘ
シト想像セラル、收税官吏カ自身奉仕スル政
府ノ權利ヲ悉ク昧却スル一文書ノ保証人トハ
ナルマシキナリ
又タ此文書ニ調印シタル此人ノ過誤ナリトセ

ハ呵責ヲ蒙ムリシ筈ナリ然ルニ決シテ此事ナ
ク今マ現ニ北京ニ於テ信任ヲ受ケ清政府外務
顧問ノ秘書史タリ

清國軍兵ノ臺灣ニ屯在セル間ニ予ハ指揮總官
ニ足下ノ政府ノ名ヲ以テ此地所領セラルヘシ
ト勸メタリ此人前ニ述ヘシ如ク予依頼ニ應シ
返リノ炮臺ヲ築キタリ而シテ彼云此地ニ永久
ノ炮臺ヲ築クニハ必ス其長官ノ免許ヲ得ン
ヲ肝要也ト

註千八百六十八年及九年米國外交文書清國

部五百零五葉ヨリ五百十葉ヲ看ルベシ
然ルニ清政府ハ此勸言ニ注意セサリシ也而テ
永久ノ炮臺ヲ築カサルノミナラス彼ノ千八百
六十七年ニ取設タル土團ヲモ頓カテ廢却サレ
タリ

註 千八百六十九年米國商務報告書九十六葉
ヲ見ヘシ

又蕃人ハ清國人ノ平和ノ交ヲナス外國人ト交
際ヲナシ又此等ノ人ト戦争ヲモナシタリ而シ
テ清國ハ異存ヲ云立タル事ナク又訃ヲ起シタ

ル事ナシ

千八百六十七年ニ水師提督ロツヂルスカ曾テ
蕃人ト戦シ此地ハ清皇帝ノ管轄ニハ非ル事
ヲロツヂル氏モ兼知シタリ

註 千八百六十七年米國海軍々報告書五十四
葉及五十七葉ヲ見ルヘシ

斯ノ如クナレハ清國ハ臺灣蕃人ニ政權ヲ及ホ
ス見込ニテ処置ヲナス事難カルヘシ如何ント
ナレハ清國從來ノ圖計永ク蕃人トノ交際ヲ省
却シタルノミナラス尚オ一層ノ害ヲ増タルハ

蕃人ヲシテ外国人ニ向ツテ敵愾ノ氣ヲ激発セシメタル事也因テ清国ハ全世界ヲ驚嚇スル大焚燒ノ火ヲ點シ

註第一卷百三十六葉及ヒ第三卷百十四葉百二十五ヨリ百二十葉マテヲ見ルヘシ

而シテ其力之ヲ撲滅シ能ワスト云フヘキナリ清国ハ臺灣ノ蕃人ヲ東部及ヒ南部ノ海岸ヨリ内部ノ山林中ニ伐逐スル能ワス因テ不幸ニシテ此海岸ニ漂到スル海客ノ悩マサレタル極メテ慘毒ナル時疫ノ如ク日本人ヲモ悩マシ且

害シタリ而シテ彼等ト接スルニ道ナシ因テ日本ハ之ヲ緩撫シ之ヲ開明ナラシムル為ニ此事ヲ自ラ担当シ其地ニ扱ル事理ナシト云フヘカラス若シ能ワスンハ之ヲ織滅スヘク余ヲサレハ英又ハ米カ其土地ヲ侵シタル蕃人ヲ処置セシ如クスヘシ

臺灣ノ東部ニ進入センニハ日本マサニ千八百七十一年ニコントデヘニヨスキ氏カナセシ如クシテ可ナラン

註四百二十九葉ト四百四十五ヲ見ルヘシ

併テ兵卒ヲ一個処ニ上陸セシメスレテ之ヲ教
個所ニ送ル事必要ナリコントデベニヨスキ氏
ハ小船一隻ト彼ノ教員ノ行險求利ノ人ト共ニ
居住ノ地ヲ構ヘタリ此全行ノ人々モシ道ヲ知
リ事ヲ托スヘキ人ナランニハベニヨスキカ此
行十分成業シタリナラン斯ノ如キ有限ノカヲ
以テ殆ント事ヲ終リタリ日本ノ資力ヲ以テ何
リ成功ノ得カタキヲ憂シヤ日本ハ河流ノ口ニ
於テ軍屯ヲ設クベシ船舶ノ碇泊スヘキ海口三
個所アリ公罪ヲ犯シタル者凡テ此等ノ処ニ送

リ以テ土人トノ交ヲ開クヘシ土人ハ日本人ト
稍ヤ全種ノ人ナル故容易スク開化シテ教ニ從
フベシ土人ノ中ニハ才氣アル者モ少カラズ
人殺シノ罪アル者ノ外ハ死刑ニ行ワス皆ナ此
地ニ送リテ移民ノ教ヲ殖ヤスヘシ斯ク如ク
ル片ハ一年大約一千人ヲ送ルヲ得ヘシト算計
スルナリ

臺灣ノ蕃地ハ国土美ニシテ天産ニ富メリ斯ノ
如クシテ此地ヲ扱有セハ十個年間ニハ日本帝
國ニテ至要地ヲ附添スヘシ

島中支那ノ領地ハ能々注意スヘキ也蕃人ヲ後撫スルノ策ヲ行フニ方ツテハ支那ト接壤ノ地ナル故日本彼レト戦ヲ交ルルニハ十分親切ナル助援ヲ清国ニ望ムヘシ支那ハ条約ノ趣ヲ守リ若シ蕃人等ノ逃レテ支那領ニ入テ潜居スル者アラハ之ヲ抑留スヘキナリ若シ清国之ヲ成サ、ルル中ハ世人又或ハ彼ノフロリダ洲ヲ米國ニ合成セサリシ以前フデラル堂ト西班牙士、官トノ間ニ屢ハ生セシアムトロリテイルノ争鬪ノ如キヲ臺灣ニ見ルナラン

註 米國公文書第四本千八百三十四年ノ外交文書ルイスドニスヨリ國務卿ヘノ書翰則チ四百九十五葉ヲ見ルヘシ而シテ該地ノ正サシク合併セラレシ迄争ヒ終ヒニ結局ニ至ラサリシ也
日本臺蕃ノ地ヲ所有セシ後若シ清国ニテ後ノ憂ヲ慮ハカリ其所領地臺灣島中ニ在リヲ讓與セント決意セハ日本ハ疑ヒナク相當ノ取極メヲ領義スヘシ
日本ト清国ハ互ニ數百年平和ノ間柄ナル故清

国ハ其南東ノ地ニ於テ強盛ナル局外連合ノ一
国アラシクテ或ハ讓地ヲナスヲ好ニ至ラ
シ佛国ハ此ト全シキ意思ヨリシテルイシヤナ
洲ヲ合衆国ニ讓ルノ心ヲ生セリ

註合衆国スタタラトシニ百葉ヨリ二百
零六葉ヲ見ルヘシ事ハ千八百三年四月三

十日ニ在リ

佛思ヘラク一ノ海國アリテ其連衡ヲナシ而シ
テ英ト對峙スル事大ヒニ要用ナリト魯西亞カ
前年ルシヤンアメリカノ地ヲ合衆国ニ賣與セ

シモ憶フニ此意ノ外ナラサルヘシ

臺灣島ヲ日本ニ讓与スル一件ニ付清国ノ決意
ハ如何様ノナル共日本ニテ一タヒ蕃地ヲ扱
有セル后ハ全島ヲ手ニ入レント唯之ヲ処分ス
ルノ如何ト時日ヲ待ツニ在ルノミ
強盛ニシテ勉勵シ且ツ戦ヲ好ム者隣端ニ在テ
ハ清国島ノ一部ヲ所有シテ其甲斐有リ難キ
尚オ西班牙ノフロリダヲ所有シタルト全シカ
ラシ之ヲ所有スルト一日ヲ永フスル一日ノ不
益ヲ増スニ至ラン持久之後終ニ所有シ難キヲ

也 知リ不得止之ヲ賣與スルハ價大ニ減スヘキ

東方ノ国ニテ臺灣及彭湖^{ペウカ}ヲ扱有スル事ニ付キ
既ニ兵務ノ要畧ヲ説キ示シタレハ日本ニ於テ
斯ノ如キ要地ヲ取ルノ至務ナルハ贅言ヲ待タ
サル也

註 第二回百廿四及五葉百五葉百五十一葉及
第三回百十八葉ヲ見ルヘシ

第廿五回

クワアリヤン灣ヨリ鷄籠^{キロウ}ニ至ルノ海岸

臺灣ノクワアリヤン灣ヨリ北緯二十二度半東
經百二十一度十分二値ル海岸ノ地ニ至ルマテ
ノ蕃地ノ諸説ハ久シク打狗^{タカ}ニ羈留セシトクト
ルマンソン氏ノ予ニ告シ所ニシテ則チ下文ニ
記スル所ノ物也

臺灣東岸ノ蕃種及村名ヲ記セハソウツケ^フヲ
南ヨリ大村落ナルペボ^フニ終ル^フヲ^フサ^ム
セントアイ^フコアルト^フバテヨル^フハタハル^フ

カナピ 支那人在ラス ツオオサ空ージ サバリ 支那人アリ トバ
カッタ 支那人在ラス

註 ドクトルマンソンノ報告人ノトバカッタト
云ヘルハ左イラウクノ酋長トキトクナラ
ン

チイフン 支那人三四十人 サマカン 支那人在ラス レカバン 支那人
人ノ家 四軒 タマラカン 支那人在ラス アテイパイ 支那人在ラス ビナ 支那人家十軒
セキ 支那人在ラス ビイラム 支那人五軒 バランアン 支那人家十軒
トーラン 同上三軒 アニホンク 全上一軒 カニハンガ 全上二軒
モロス 全上五軒 サムセンタイ へホろンスト云フ

ヒイラムハピイラムヲント云フ大蕃種ノ首地
ニシテ昨年千八百七十二年ハ一婦人其首酋タリ其子アン
シャン 嗣位ノ人也
此アンシャンハ予ニ前記ノ地名其他ヲ教ヘシモ
ノ也彼予ニ告テ云ボテルトバゴノ地ハピイラム
ヨリ見ユト彼等ハ此地ヲボテイト云フトピイラ
ラムノ地ハ打狗ヨリ正東ニ方タリテ
註 アンシャンカ其住村ハ打狗ヨリ正東ニ方ル
ト云フハ誤レルニ似タリ予カ所持セル古
圖ニ全人カ云ビシガフヒイキ 二重峯山ノ名 ヲ

北緯二十二度五十分ノ地ニ位セリ

トアソアブト名ツケタル大山ノ麓ニ在リト
海上ヨリ望ムニ北手ノ山背ニ在ルニ重峯頭ニ
一ノ明礮アルヲ見ル則チ之レ也引水人ハ打狗
又ハ瑯瑤ニテ雇フ丁容易ナリト

アインヤンハ年老ノ人ニシテ予ニ曾テ療病ヲ乞
ヒシ事アリテ大ニ其恩ヲ感セリ善ク外国ノ人
ニ交ル配下ノ者モ皆ナヨク勉勵シテ農業ヲ勤
ム此近傍ニ在ル他ノ蕃人ヨリモ一步開明ニ進
メルカ如シアインヤンノ言ニ彼ノ住村ニ彫琢ヲ

加ヘタル石碑アリ之レ村人ノ崇祀スル所ニシ
テ太古ノ時ヨリ存セリト此等ハ臺灣ノ書ヲ讀
ム者ニ益アラント思ワル此アインヤン存在セル
間ハ此蕃種ノ地ヲ独行スルモ極メテ安全ナラ
ント思ハル也

此地貨幣ナシ農具小刀火薬等ヲ大ニ貴重ス
予思フニヒイラムヨリ瑯喬ニ越ヘ行カン丁難カル
マシアインヤン云ヘラク予モシ彼レカ住家ヲ訪
ハ、二百人ノ警衛ヲ與ヘント路遠カラスト重
モ甚ハ夕艱險ナル故跋渉十日ヲ要スヘシ

北方ニ方リテ大ナルペホファンノ領地ハ意ヲ着
スヘキ所ナリ此土人ピラム蕃ト戰爭中也併ラ
越ヘ往カン事容易ナリ

タイナハイ島ト云ヘル書ニ臺灣ノ海岸ニツ
キ左ノ説アリ

サヲベイノ外ハ碇泊ノ地アル事ナシ陸地ニ
直接セル所ニ於テ海水深シ山々直チニ海中
ヨリ兀立ス田圃所々ニ見ヘ屋舎モ散在ス此
地北東ノ定信風ハ甚タ強カラス此ハ憶フニ
山國ナル故風筋ヲ速ルナラン併ラ東方ニ百

里ノ所ニテ帆走船強風ニ逢ヒシコトアリ併ラ
若シ風力減シ波高カラス而カモ午前九時ヲ
リ午后三時迄若シクハ日没迄ノ間ナレハ二
百多ソム迄海岸ニ沿着シテ利アルヘシ併
此限ヲ越ステハ用心スヘキナリ其譯ハ風忽
チ止ニ浪大ニ高キハ甚シキ危険ノ微候ナレ
ハ也

臺灣北東ノ極地ヨリ南西ノ方位十一里ノ地
ニ在ルステイロ島ニハ支那人之二住セリ

註

ステイロ島ヨリフクク島ク灣ニ至ル迄ノ

記載ハ英軍艦インフレキシブル号ノブラ
クニ一氏ノ説ナリ

海面ヨリ大約千二百尺ノ高度ナル圓錐狀ノ
尖峯マテ耕種シテ臺榭ノ形ナリナセリ此ヨ
リ東方ニ方リ尚方一峯アリ其高サ八百尺ア
リ海上ニ突出シテ其形物ヲ懸下セル如シイ
ンフレキシブル艦ハ此島ト海岸ノ間ノ通航
シテ四十ヲアソムノ限ニテ海底測量ヲ用ヒ
ザリシ
スネーロ島ヨリ南西半西ノ方位十里ニシテ

カリロワン河ノ河口アリ此河水長サ十三里
幅六里ノ沃地ヲ灌溉スインフレキシブル号
ノ此地ニ至リシ片河口ノ水深キヲ乾潮ノ片
三尺潮ノ満ルヲ二尺ヨリ三尺マテナリシ岸
辺海水ノ騰湧甚シク餘波入り口ニ及フト至
モ艦上ノ大艇ハガヨング夫糸製ノ漚汀ヲ通
リテ障リナシ帰途風陸地ヨリ吹キ掛ケ海水
二度艇中ニ入り殆ント覆ラントセリガヨング
クハ舟縁高ク舟嵩大ナル故水手ハ竹篙ヲ以
テ容易ク之ヲ河口ニ觸キ入ル也

河ノ概形ハ南西ニ流ル入り口ニテハ廣サ凡
一里四分之一ナリ之ヲ越エレハ忽チ二百碼
ニ至ル尚オ遡ホルト四里ナレハ僅オ二五十
碼アリ此辺マテハ深サ凡ソ五六尺アリテ其
水清鮮也入り口ヨリ七里ノ処ニ至レハ其深
サ三四尺ナレト幅狭クシテ艇ノ橈ヲ用フル
ト難シ

河ノ兩岸ハイツレモ耕種シタリ多クハ稻玉
蜀麥稷ヲ種ユ甘藷毛罕ニ見ヘタリ居民ハ熟
蕃及支那人ニシテ兩岸処々ニ村落ヲナシ其

行ヒ馴良ナリ生蕃人ハ面色黒カラス輕快ニ
シテ容貌マレイ人種ニ似タリ而シテ屢バ姪
姻ヲ通スル支那人ヨリモ見ル所大ニ美ナ
リ此兩種ノ人物ハ互ヒニ睦マシク居住ヲナ
シ而シテ彼ノ山林ニ住スル野蕃又ハチン名
シヲ恐ル、ノ心ハ皆全シ此平原ニ住スル人
口大約一万人
サオベイノ岬極南ノ処ハ北緯二十四度三十
六分東經百二十一度五十三分ニ在リ此所ハ
北東定信風ニ向ツテ此海岸ヲ航スル船舶ニ

ハ最良ノ碇泊場ナリ湾内入り口ノ処ニテハ
廣サ一里四分ノ三奥行一里アリ中ニ二個ノ
小湾アリ此南隅ヲラムホト云フ水深五
フソムアリテ避風ニ善キ地ニシテ二艘若
シクハ三艘ノ船イツレノ風ニモ碇泊安穩ナ
リ東北隅ヲパクホト云フ水深五フソ
ムアリ南風及南東風ノ外碇泊アラカラス
サヲ岩礁ノ尤モ大ニシテ西方ノ極所ニアル
モノ乾潮ノキ水サオ湾ノ南岬ヨリ北東ノ方
一里半ニ亘リ北岬ヨリ南へ一里三分ノ二ニ

亘ル之レヨリ三ケーブル東北東ノ方ニ小サ
キ岩礁数個アリ岩ト岩トノ間ニ暗礁アリ水
面見へ隠レノモノアリ又ハ水面ニ現ワレタ
ルモアリ

ブリーキウトルリイフハサオ湾ノ中心ニ在
リ小部ハ水面ニ現ワレ小部ハ見へ隠レナリ
此礁東北ヨリ南西へノ大サ一ケーブルト四
分ノ一ナリ其北東ノ極所ヨリ直立シタル圓
錐形ノ岩アリ高サ十五尺
此湾中ノ住民ハ多クハ支那ノ漁人ニシテ中

ニハ熟蕃人モアリテ雜居シタリ船中ノ用品
モ少量ナラデハ得カタシ併シ折々人民ノ往
來モアレハカリウアン河辺ノ村々トノ高
賣起ルヲ疑ヒナシ
インフレキシブル艦ハ初メ此地ノ外港ニテ
十三ヲソムノ所ニテ南岬ヲ南ニ帶ヒブ
ク穿トトルリフノ圓錐岩ヲ西北西ニ帶ヒ
タリ併カラ此地位海底ハ黑砂及泥ニシテ碇
入ハ善レモ東風ニハ安全ナラス后ニ地位ヲ
轉シテブリキウルトルリフノ内手五ヲ

ソムヨリ六ヲソムノ所ニテ圓錐岩ヲ東
ニ帶ヒ其距離四分里ノ所ニ至レリ
潮流ノ勢ハサオベイニテハ強カラス海岸ニ
沿フテ北北東ノ方位ヨリ滿チ來リ南南西ノ
方ニ乾クナリ速カ一時間一海里ナリ
サオベイニ北方ヨリ來來リ半里サオリフ
ノ東方ニ乘廻リハ晴天ニハ八里若シク八十
里ヲ隔テ其高岩ヲ見ルヘシ此片西ニ轉シテ
碇泊ス南東ノ方ヨリ來來レハ甚夕明了ナリ
山岬ヲハケールノ距離ニテ通航スブリ

キヌートルリフト云クポイントノ間ニ在
ル航路ハ甚々明カナリ中央ノ所ニテ水深五
ろ一ソム半此湾外ノ海底ノ深サハ沖手ニ向
ヒ急ニ十七ろ一ソムヨリ二十ろ一ソムノ深
サニ至ル而シテ岸辺ニ向ヒ次第ニ淺シ湾ノ
北西ノ隅ハ岩多シ

サオベイノ南三里ノ地ヲドームポイントト
云フ高サ六百五十尺アリ夫ヨリ千ヨケデー
北緯^{二十}四度六半ニ至ル海岸スヘテ峻急嶮ニシテ山々
海面ヨリ直立スルヲ七十尺岸辺ヨリ一里若

シクハ一里四分一ノ距離マテ七十ろ一ソム
ノ測量線海底ニ届カス千ヨケデーノ住民ト
音信ハ通シタレト激潮高ク揚陸叶ハス此地
ノ住民ハ多クハ裸体ナリ手ニ劍鎗ノ類ヲ振
リ廻シテ形容人ヲシテ怖レシム支那モ此間
ニ見ヘタリ而シテ土人ノ危害ニ逢ヲ甚々怕
ル、カ如シ海圖ノ記載ニ拠ルニ此辺河アリ
然レモ實際見ヘス此辺岸ヲ去ル事一里ヲ所
百十五ろ一ソムノ測量線達セス
英フロロウー船北緯二十三度八分東經百二

十一度二十四分ニ在ルブろクロクベイニ泊
シテ南西ノ強風ニ逢ヘリ此時十三ヲソム
ヨリ止ニヲソム程碇ヲカキタリ海底ハ平
坦ナラス且岩石多シ決シテ碇泊スヘカラス
此灣中岩礁ノ群ヲナシタル中央^{高サ百尺}南西
微ヲ帯ヒタル二里ノ所深サ二十九ヲソム
海底黒砂アリ沖ノ方ニ向テ次回ノ測量ニハ
七十ヲソムノ線ヲ以テ海底ニ達セス
ブろクロクベイヨリ北手ノ海岸ハ峻ニシテ
岩石多シ山ノ麓ノ方ハ草叢生ス小山ノ後口

手ニ在ル大山ハ其高サ五千尺ヨリ六千尺ニ
至ル樹林多シ^{以上トイハレ}
北緯二十四度七分半ト二十二度四十七分半ニ
至ル海岸ノ形況ト其北西ノ方西ノ方及南西ノ
方ニ當リテ山脉螺列シ其高キ八九千尺ヨリ一
万二千尺ニ至ルヲ見ルニ因テ察スルニ此海岸
ト支那領臺灣ニ至ルノ間必ス一ノ平原ノ廣袤
千四百四十七方里餘ニ下ラサルモノアラン其
高度ハ八千尺以上ニシテ熱帯ニ生スル大樹ア
リテ其限界ヲナスアラン而シテ日本ノ地方ニ

於テ氣候ノ変ヌル如ク彼ノ熱流ニ因テ此地ノ
寒暄ノ变化スルニ非レハ工ボニイ及ヒ其地貴
重ノ木材及樟腦ノ如キ産物及ヒ獸皮等ノ如キ
臺灣蕃地ノ富ヲ生スル物ナカルヘシ併ラ多ク
スバーム^樹ハ五千四百尺ヨリ八千四百尺マテ
ノ高地ニ生スル也

北緯二十四度七分半及ヒ二十二度四十二分半
ノ兩地ニ於テ海ニ注キ入ル兩条ノ河流ノ傍ニ
樟樹多シ此兩河ハ互ヒ及對ノ向キニ流カルナ
リ一ハ南西ヨリ北東二一ハ北西ヨリ南東ニ流

ルイツレモ北緯三十度ニ在ルモリンス山ヨリ
源ヲ發シタルト覺エ

此谷間及此他是ト直線ヲナシタル谷間ハ島中
居住スヘキ餘地ヲ増スヘキ所ナリ併ラ此ハ只
想像ノミノ説ナリ

樟樹ハ此辺ニ多ク生ス又タオシヤ^{以南}ニモ生
ス又サオベ^{イノ南}數里ニ在ルタンゴト云フ地
ニモ生ス此地ニハ樟腦ヲ製スル器械モ既ニ造
立セラレタリ此辺茶ノ産物モ多シ籐ハ此地ニ
生スルモ堅梗ニシテ上品ナリ

東部ノ山中ニハペポー語ニテタチクト称スル
良キ漆メ草アリ色ハ極メテ濃赭色ニシテ網網
類帆及衣類ヲ染ムルニ用ユ千八百七十一年三
月十日付ニテテイントル氏カ淡水ノ貿易事務
ヲ報告セル書ニライゾマト云フ蔓艸長ク嬾カ
ナル枝ニ利キ刺繁ク生シテ一叢ヨリ一叢ニ枝
ヲ交ヘテ附纏スト此ナリ

サヲベイハカモラン
テイノ南ニ在リカモラン
テイハ臺灣支那ノ一區地ナリ予未タ此地ニ至
ラサルカ故ニテイントル氏カ千八百六十九年

一月三十一日ニ記シタル報告書ヲ左ニ引用ス
東海岸ニ於テキーロンヨリ南ノ方約二十五里
ノ地ヨリ尚オサヲベイノ方十四里ノ地マテ廣
袤ナル美麗ノ沃地アリ公名カモラント云ヘ凡
世俗ハ之ヲカプサラント云フ也此地ハ山々半
圓形ヲナシテ島嶼ノ状ヲナセシ廣キ所ニテ幅
六七里アリ平地ニハ米ヲ種ヘ収納ノ上ハ多ク
ハ此ヲ鷄籠ニ運送スルナリ此地ノ境内ニ稍ヤ
賑ハシキ邑々アリ就中ロタト称スルハ清ヲ
カニテ良キ邑ナリ人口モ多ク高賣モ盛ンナリ

此平地ハ大概百年前ヨリ追々ニ開拓セリ始メ
ハ野蕃ノ住地ニシテ其後支那浮浪ノ徒茲ニ集
レリ百年以前ニ至リ土地ノ沃饒ナルニ因リ漸
々移住ノ人蝟集シ遂ニ千八百十年ニ於テ地方
官ヨリ上書シテ此地上ホセテ「テ」廳トナサン
事ヲ乞ヒ千八百十二年ノ詔ニ因リテ之ヲ許行
セリ

カバラント稱シテ平原ニ住スル野蕃ハ容貌醜
カラス支那人此等ヲ趕逐シテ漸々山林ニ追ヒ
入レ或ハ全ク平原ヲ退カシメタリ此蕃族ハ太

ハタ開明ニ向ヒ支那ノ風俗ニ習ヘリ而シテ支
那ノ土語ニテ「ホ」又ハ平地蕃人ト唱ヘ山
林ノ野蕃トハ區別ヲナセリ彼等ハ其原住ノ地
ヨリ趕逐サレ未開ノ蕃地ニ赴キテ住居ヲ占メ
リ此仕方ニテ先年以來許太ノ地ヲ開拓セリサ
ヲヨリ南ノ方十五里許ノ東海岸ニ在ルタラオ
ト云ヘル所ニ或ル外国人首謀トナリテ「ホ」ノ
属地ヲ開キ蕃人ト約ヲ立テ睦シク交ワレリ地
産沃饒ナルカ故ニ能ク業ヲ繼續セシナラハ此
属地繁榮ニ至ルヘカリレニ開業ノ人死亡セシ

ニヨリ後來竟ニ廢業ニ及ヒタリ

前ニ記シタル開業ノ人ハホルン氏ニテ千八百七十年ニ於テ臺灣南西ノ部ニ漂到セシ人ナリ

註 三百零六葉ヲ見ルヘシ

カモラン廳ノ廣サハ二百零三方里ニシテ人口三萬零四百五十人ニハ過キサルヘシ

第二十六回

千七百年間及ヒ千八百年間印行シタ

ル和蘭人ノ地圖ノ明細記 コントテ

ベニヨスキ氏ノ事件

予カ前ニ記セシ如ク和蘭人ハ臺灣東海岸ニツ

キテハ僅カニ不十分ノ知覺ヲ備ヘタリ臺灣府

南西ノ極所ニ當ルソイデルエイランド 此島現今存在ス

ト稱スル島ハ多ンブラアムス著述ノ航海圖ニ

海底測量ノ度ヲ記セス因テ彼ノ商人等及ヒラ

モリニエルクレーチフ

註第十七葉ヲ見ルヘシ

ニ於テ記サレタルポリスバルチースモクワー
リヤン灣ヲ發見セサリシ事明カ也近來ノ地圖
ニ記シアル有名ノ所ハ粗略ナレト僅カニ測量
ヲ經タリト見エ揭示セシ物アリ
左ラヨクト牡丹種トノ境線ヲナス所ノ河ノ口
ニ在ルヘキ一村落ハマタマルト稱レテ彼等ノ
海圖ニ記シタリ又左ラヨク河ノ口ニ在ル小嶋
ハテイルトバコト記シタリ猶南ノ方ニ數個ノ
小島ヲ記シタリ然ルニ近來ノ航海圖ニ此島見

ヘス是此地度々ノ天変ニテ洗ヒ去ラレシヲ疑
ヒナシ此等ノ小島ノ名ハテイルゴロトトタバ
コ

註此島近來ノ海圖ニ拠レハ北緯二十二度五
分東經百二十二度三十分ニ位スルボテル

トバゴ島ナラン附屬ノ圖ヲ見ルベシ

テイルモアリ左ス及ヒメル至ンテイル也尚オ
海岸ノ方北ノ方ニアランセルナチベイラヒハ
リ及ビベニムボスノ村アリ北緯二十四度ヨリ
些シ上ハ手ニドアチ島アリ今ハサヒヤット及ヒ

デニアルト云フニツノ些シ大ナル島アリ之ハ
ベイヲンデニアルト称スル海峡ニ因テ分割サ
レシト見ユ

サオベイヲ記スヘキ処ニドエロト称スル河ア
リ此北岸ニドエロ村アリ今コリュレイト称スル
河ヲ和蘭人ハヲンスインロウレス湾ト名ツケ
タリ此河ノ上ハ手ニ又タトランギダント称ス
ル河流アリ此河流ノ向手ニトスレイスマゴス
島アリ今ノ圖ニ見ヘス北緯二十五度ヨリ些シ
下手ニガクレイ島アリ此向フ手臺灣島ノ岸ニ

和蘭人ノデホークランシントヂヤラブ称シタ
ル地方アリ又其海岬ヲデノナルドヲストホト
クト称セリ此點ヨリキーロンノ間ニ存在セル
カ如ク和蘭圖ニ記シタル教島今全ク見ヘサル
物アリエンビインゼニユトルドラマリシノ海
圖ニ東海岸ニハ格別心ヲ用ヒス多クノ地方ヲ
記シタレ凡缺畧多シ而シテ海岸ノ線ニ近ク明
カニ註語ヲ下シテ云ク此海岸ハ能ク知ル者少
シ

予カ曾テ説キシ支那人採金ノ為メニ東海岸ニ

至リシ片ノ略説

註百十四葉ヲ見ルヘシ

トコントドベニヨスキ氏ノ覺書ノ外ハ予カ讀過セシ和蘭人葡萄牙人及ヒ西班牙人ノ著ハシタ語類ノ書中ニモ更ニ東海岸ニ説及フモナシコントドベニヨスキ氏ハ

註此人ノ説ハウリヤム氏ノミッドルキンダムノ云フ書ノ第一卷百十八葉ニ引用シタリ如何ナル才質ヲ備ヘタリシヤ明知シ難ケレト企謀逞シク志氣遠大ニシテ且ツ才略ヲ具シタ

リト云フハ誤リニ非ス此人元ハ匈牙利ノ貴族ニシテ澳多利ノ陸軍士官ヲ勤メ英及和蘭ニ至リ海務研究ノ為メホランドニ赴キ此地ニテ魯西亞政府ニ叛キタル謀叛黨ニ與ミシ騎兵ノ指揮役及多トトルマストルゼ子ラル官ニ陞レリ然ルニ軍俘トナリ千七百七十七年カムシカトカニ謫セララル此時齡二十九歳ナリ此地ニテ外流罪ノ者數輩ト謀ヲ併セ蓋テベニヨスキ氏ニ戀着シタル此地ノ鎮臺ノ女アヲナシヤト云婦人ハヘニヨスキ氏ノ妻ハ此片歐洲ニ在リテ未

タ存生ナルヲ知リナガラ全氏ト運ヲ共ニセシ
テ決シタル故之ヲモ伴ヒ船ヲ奪フテ逃奔セ
シテヲ企テタリ

千七百七十一年全行九十六名ト共ニ嶋ヲ脱シ
テ日本琉球群島臺灣宮子島ニ至リ終ニ佛船ニ
乗シテ佛国ニ着セリ佛国政府其才略ヲ知り之
レニ命シテマダガスカルノ植民地ヲ開発セシ
ム彼此ノ功業ヲ遂ケ三年間此地ニ居テ占メ非
常ノ艱難ヲ受ケタリ然ルニ佛国政府ノ趣意ハ
此島ヲ其管轄ニ歸セシメントスルニ在リテベ

ニヨスキーカ土人ノ酋長等ヲシテ獨立セシメ
シトスル懇願ヲ聽納セサリシ此全氏力辭職ノ
原因ナリ此際全氏ハ親シキ酋長等ヨリ王位ヲ
授カリタリ全氏ノ島ヲ去ルヤ歐洲ノ一兩國ト
貿易條約ヲ締フ為メニ其圖計ト權義ヲ具シ而
シテ其全盟ヲ保固セントセリ此儀成工易カラ
サルヲ以千八百七十三年英政府ニ出願セリ併
テロンドンノ市人トハルチモール商社ヨリハ
助カヲ得タリシナリ千八百八十四年其妻ヲ亞
米利加ニ殘シテ再ヒマダガスカル島ニ出発シ

此地ニ於テ佛国ニ向テ叛乱ヲ起シ千七百八十
六年終ニ戦死ス妻ハ千八百二十五年十二月四
日匈牙利ノヘツコト云ヘル所有ニテ歿セリベ
ニヨスキ其記録ヲ佛朗西語ニテ記述セリ其手
書ヨリ譯セシ物ヲウリヤムニコルソン英國ニ
於テ板行セリ諸此人ノ行状ヲ説キ了リタレハ
是ヨリ全氏ノ記録中臺灣東海岸ニ着セシ一段
ニ移ルベシアンソンノ紀行ヲ讀ムテ回旋スル
流人ノ一隊ハ臺灣島ヲ一閱シテ他ノ開拓人知
見ヲ擴メント欲シ即千七百七十一年八月二十

六日ハ北緯二十三度二十二分ノ地ニ着シ十四
乃ソムノ所ニ抛錨シ二艘ノ小艇ヲ下口シ十六
人ヲ揚陸セシム此人教数時間ニシ帰り来リシ
三名ヲ手疵ヲ受ケ土人ノ俘囚五人ヲ引キ回レ
リ諸士官ノ報告セシ趣ニ云ク彼等覓着セシ良
港水深八尋ヨリ三尋ニ至ル陸ニ上リシ時ニ燒
火ト土人教輩ヲ見タリ此土人ニ食物ヲ乞フ様
子ヲ示セシニ土人ハ此人々ヲ一ノ村落ニ伴ヒ
豚肉米飯檸檬及ヒ蜜柑ヲ與ヘタリ然ルニ此等
ノ土人ハ別状ナク見ユレト武器ヲ佩タル者共

教人茲ニ集マルヲ見テ士官ハ彼等カ單擾ノ機
會ヲ生セサラシメン為ニ速カニ退散スル良ト
セリ彼等ニ教柄ノ小刀ヲ贈リシ后帰ヲ取リ未
タ海岸ニ至ラサリシニ羽箭忽チ飛來ツテ兩人
ヲ傷ケタリ因テ此方ヨリモ小銃ヲ放ツテ土人
六名ヲ倒ラシ其餘ノ者ヲ退ケタリ然ルニ土人
ハ又盛り返シテ撃チ來リシニ此方ハ既ニ小艇
ニ取り乘リシ后ナリレカト終ニ勝利ヲ獲テ引
返セリ此時五人ヲ俘囚トナシ六十人ヲ屠戮セ
リト

此ノ不幸ナル手始ニコントハ此地ヲ去ラント
セシニ全行人々ハ懲罰ノ十分行レサリシ如
ク思ヒ是非港ニ入りテ報仇ヲ行ワント云フ因
テ翌日船ヲ岸ヨリ百尋ノ距離ノ地ニ寄セ二十
八人ノ者揚陸セシメタリ此人教程ナク土人ニ
出逢ヒシニイツレモ樹枝ヲ負ヒ武器ヲ佩ヒス
足下ニ至ツテ跪伏セリ此ノ如ク降伏セシ故人
々モ憤怒ヲ鎮メ戒心ヲ去リテ村落ニ入りタリ
然ルニ此人々ノ不取締カ又ハ其他ノ緣故アリ
テ土人等再ヒ起リ立チテ遠ニ此人々ノ内教人

ヲ裸体ニシテ其村ヨリ追出タリ茲ニ於テベニ
ヨスキモ不得止援兵ヲ卒ヒテ其村ニ至リテ土
人ヲ再タヒ追拂ヒ二百名ヲ屠戮シ終ニ村落ヲ
焼拂ヘリ茲ニ至テ人々満足ノ思ヲナシ錨ヲ上
ケ輕風ニ乗シ西北ノ潮流ニ沿フテ海岸ヲ繞リ
北方ニ向ツテ前進セリコソト此片一事ヲ発見
セリ其船潮流ニ從ヒ海岸迂曲ノ状ニ應シ航路
モ又迂曲ヲナシ潮勢船ヲシテ岸辺ニ押上ル憂
ヒモナク船頭ニカヲ持タスル風カモナシニ常
ニ岸ヨリ全距離ニ在リ斯ノ如クシ數里ヲ經過

セシ后ナ土人ノ船ニ艘ノ先導ニヨリテ水深三
尋ナル一ノ最美ノ良港ニ着セリ此ヲコソトハ
ホルトモリスト名付ケタリ此港ノ地位今マ分
明ナリカタシ此段コソト企計アリテ此疑團ヲ
殘セシナラント思ハル備テ數多ノ小船忽チニ
現レ來テ鳥類豚米菓子等ヲ供給セリ
此後程ナク別ニ一ノ黨アリテ歐羅巴人ヲ其首
長トナシテ來着セリ彼云ヘラク予ハ西班牙人
ニシテ曾テ七八年前不幸ニシテ其妻ト不義ノ
行ヒアリシ一僧ヲ殺口シ而テマニテヨリ逃奔

シタリト此人初メハマニラノカウエル港ニテ船
長ヲ務メ其名ヲヒエロニモハ左コト云フ此人
ヲ通譯人若シクハ全侶ト為サンタメニベニヨ
スキハ貴重ノ贈物ヲ給シ且ツ此地滞留中忠実
ニ勤務セハ尙有贈遺スル所アランヲ約セリ
然ルニ此ノ徒ハ元ト險ヲ行ヒ名ヲ好ムノ人ナ
レハ天一日モ安居セシメサルニヤアラン其ノ
翌日此徒ノ一隊水ヲ汲ミ居シニ土人ヨリ襲撃
セラレタリ水ヲ汲ム所ハ船ノ泊セシ所ヨリ程
隔タリタルニ此地ノ蕃人ハ惡意ヲ抱ケル者故

ドンヒエロニモハ水汲人ニ注意スヘキ旨戒メ
置タレト不意ヲ打レテ此レカタメ三人ハ害セ
ラレタリ之レカタメドンヒエロニモ及ヒ其黨
ハ仇ヲ報ヒント決シ又タベニヨスキノ徒モ復
仇ノ拳ヲ請求スルニ因リベニヨスキハ好ム所
ニ非レトモ之ヲ許諾シ而シテ其黨カ或ハ謂レ
ナク性命ヲ抛ツノ暴挙アランヲ防ク為自カラ
之カ首將トナリ手嚴シク戦ヲ始メタリ先其首
途ニ先達ニ俘囚ニナシタル蕃人ヲ殺ロシ次ニ
近寄り来リシ小船ノ其意善惡ハ知レサレト之

ヲ襲撃シテ衆組ハ皆十首ヲ刎タリ
ベニヨスキノ黨船ヨリ上陸スル者四十三人ト
ンヒ口ニモノ配下二百人ト共ニ内地ニ立入
リ仇敵ノ殘黨ヲ探訪ス此黨果シテ惡蕃ニ出逢
ヒ彼等ヲ峻山ニ追ヒ入詰メ船中ヨリ大炮ヲ持
來リテ一方ヲ固メ一方ヨリハ西班牙勢トベニ
ヨスキトカヲ併セテ逼攻シケレハ蕃人勢究リ
テ地ニ伏シテ降参シケリベニヨスキ明言シケ
ルハ蕃人等モシ此後モ害惡ノ意ヲ改メスンハ
今マ忽チ発火スヘシト此日蕃人ヲ殺シタル事

千百五十六人ト數ヘタリ其内婦人モ多ク在リ
テ男子ト全シク軍装ヲナシ各其土地ノタメニ
戦死シタリ生俘ノ數六百四十人ナリ此等ハ皆
ナ西班牙人及ヒ友愛ナル土人ヨリ惠ミヲ受ケ
タリ

此ノ屠戮ノ翌日コントハ其黨一般ヲ集メテ陸
上ニ陣屋ヲ調理セン事ヲ議セシニ其黨皆之ニ
應シ各自ニ小屋ヲ構造シテ外国ノ全盟ヲ迎フ
ル用意ヲナセリ然ル后ベニヨスキハ受傷ノ人
々及ヒ其ノ黨ノ家族ト共ニ陣屋ニ移リドンヒ

正口ニモノ家族及其他朋友等ト相會シ此人々
ノ云フヲ聞クニ此島ニ在ル一種獨立ノ蕃人フ
アポトト云フアリテ此酋長ベニヨスキカ其酋
敵ヲ所罰セシ由ヲ聽キ來テ其謝ヲ述ベントス
ト又云フニハ此酋長ハ能ク兵卒二万人乃至二
万五千人ヲ招募スベシ其住所ハ此ヨリ約ソ三
十リーグノ内地ニ在リ而シテ常ニ西ノ方支那
人ヨリ窘メラルト又云ク中央ニ在ル全人ノ領
地ハ開化シタレト東岸ニ在ル地面ノ内此ノ首
長ノ領地ノ外ハ皆ナ野蕃ノ所轄也ト此日酋長

ヨリゼ子ラルト称スル士人一名ヲ遣ハシ其來
ルヲ告ケ用意ヲナサシム
コントハ此使者ヲ礼待シ情誼ヲ保存シタリ此
使者ハコントノ説話ヲ聞キテ酋長ノ來ル迄ハ
コントノ出発ヲ止マラン事ヲ願ヒ兵卒ヲ以テ
警衛セント云ヘリベニヨスキハ之ニ相當ニ謝
ヲナシ而シテ自己ノ警衛ハ不足ナキ故此ノ信
切ナル預備ハ甚ハタ分ニ過キタルヲ着意セリ
此ゼ子ラルノ着服ハコントノ精密ニ記載セシ
ニ擬レハ彼黒キ襯衣ノ能ク身体ニ密着シテ首

ラヨリ足ニ至レルヲ着シ支那ノ半靴ヲ穿キ白
キ襦袢ト黒キ胸衿ヲ着シ金臺ニ珊瑚珠ノ鈕鈎
ツケタル外袍ヲ披ケリ彼カ着シタル麦藁製ノ
帽子ハ上頭殊ノ外尖リテ其上端ニハ赤色ニ染
成シタル馬尾毛ヲ以テ粧飾セリ彼ノ所有ノ武
器ハ劍長鎗弓及二十五矢ヲ挿ミタル矢筈等ナ
リ隨從ノ兵卒ハ裸体ニシテ唯中腰ノ之一幅ノ
青キ木綿切レヲ纏ヘリ其兵器ハ鎗ト弓ナリ
フアポノ來ルマテノ時間ニハゼ子ラルト午餐餐
ヲ共ニシ且ツ大炮ヲ示セリ此際島人等漸々ニ

親ミヲ重子其子女数名ヲ陣屋ニ殘シ置クニ至
レリ

フアポ酋長來着ノ行列ハ先ツ初メニ騎馬ノ者
六騎一種旗章ノ類ヲ押シ立テ次ニ短槍ヲ持テ
タル歩兵列ヲナシ此次ニ三四十人ノ騎馬兵ト
弓ヲ持タル歩兵一隊次ニ棒及小斧ヲ持タル兵
士此後ニ酋長ハ十二人乃至十五人許ノ從士ヲ
引連レ脊高カラサレト美麗ナル馬ニ跨リタリ
此他ノ兵卒ハ隊伍ヲナサス皆々陣屋ニ着シテ
各坐スヘキ所ニ坐ヲ占メ而シテ番兵ヲ命セス

コントハ直チニ馬ヲ以テ迎ヘラレテ酋長ノ前
ニ出テタリ酋長ノ容貌ヲ打チ見ルニ其年齢三
十五乃至四十五身ノ丈ケ五尺三寸眼光峻ルト
クシテ形容强壮雄偉ナリ

酋長ハコントヲ見テ忽チ其來臨ヲ悦ビ強敵退
治ノ功ヲ謝シ且ツ云ヘラク予ニ占筮ノ人アリ
曾テ云ヘラク我輩臺灣ノ人支那人ノ軛ヲ脱セ
ル時至リ外国ノ人來テ之カ始ヲナスト之レ則
チ君ヲ云フナリ因テ今ヨリ其有スル所ヲ權ヲ
君ニ授ケン君必臺灣ヲシテ自由ノ地トナスノ

計ヲ成スヘシト此ヨリヒエロニモ相見シ了リ
ベニヨスキ云ヘラク予ハ一ノ大諸候ナリシニ
茲ニ來リンハ支那所分ニ関シ島人ノ願フ所ヲ
遂シメ彼ノ反覆無究ノ国人ノ手ヨリ救ワン為
メナリ然レト別ニ新紫ヲモ起スヘキナリトコ
ントハ實ニ新紫ニモセヨ旧紫ニモセヨ或ハ新
旧ノ兩紫トニ起スヘキモセヨ事ヲ遂ルノ時ニ
於テハ敢テ是非ノ間ニ固着スル人ニハ非リレ
也
此後ノ集會ニ於テ酋長ハ其支那ニ向ツテ戰ヲ

起スヲ願ヘル譯ヲ委シク説話セリ

コントハ酋長ニ其船ヲ示シ火戲ヲ示レタリ

酋長ハ其歸ル片ニ臨ンテ劍及ヒ劍佩ヲ贈テ軍

權ヲ分ツノ徴シトスコントハ大炮ニ門良銃三

十挺火藥六桶鉄彈二百斤火柴五十斤ヲ贈ツテ

之レニ酬ユ此外ニ日本刀五十振ヲ与ヘタリ是

ハ此黨ノ人カ曾テ日本ノゴヨンク船ノ形ノ名和船乃チ之レ也

ヲ取押ヘテ奪取リシ品ナリシ

コントハ后會迄ノ時間ニドンヒエロニモニ種

々ノ説ヲ聞キプリンストノ應對ニ備ヘントス

プリンスカ曾テコントニ話セシ企ノ内ニ左ノ
教条アリ云ワク

コントハ其黨ノ一分ヲ其再來ノ日マテ島中
ニ留ムヘシ

コントハ彼カタメニ軍艦教艘及ヒ之ヲ指揮
スル艦長ヲ雇ヒ得ヘシ

コントハ彼ヲ助ケテ即今ハワンレイングノ
地ヲ全ク所有スル權ヲ持レタル支那人ヲ逐
逐スヘシ

全領地スベテ順利ヲ得タル后コントハ彼カ

即今金子ノ拂方及其他ノ利益ヲ得ンタメニ
戦ヲ構ヘタル近隣ノ蕃酋ヲ攻ムヘシ而レテ
后双方永久ノ和親条約ヲ結フヘシ

コントハ軍艦々長等ヲ得ル為メノ費用ヲ告ケ
第一条ヲ除クノ外ハスベテ兼諾ヲナシ而レテ
和親条約ヲ定認スルノ用意ヲナシタリ此礼式
タルヤ予輩ヲシテ東方各群島ノ國ニオ井テ類
似ノモノ盛ニ行ワル、事ヲ記覚セシメタリ
凡ソ野蕃ノ酋長等外客ニ向ツテ其ノ和親ノ意
ヲ表スル片ハ何レノ蕃地ニ於テモ主客双方ヨ

リ一小点ノ火ニ近カ寄り木片ヲ之ニ投スルヲ
例ナリトス備テ此時予ニ一香爐ヲ付与シ又他
ノ香爐ヲ酋長ニ付与シタリ爐中ニハ多クノ木
片ニ火ヲ点シテ其内ニ貯ヘタリ備テ双方香木
ヲ炉中ニ投シ東方ニ向ツテ数度之ヲ薫ラセタ
リ次ニゼ子ラルハ目的ノ条欵ト予ノ答詞ヲ朗
讀ス此朗讀中句切り毎ニ予モ酋長モ東ニ向ツ
テ幾ク度トナク香ヲ薫ラス讀文了テ酋長ハ自
身モシ今日ノ約ヲ破ラハ罰ヲ受ルヲ甘マンス
ル趣ノ詛詞ト誓文ヲ宣讀スドンヒエロニモ予

ニモ全シク誓ヲ立ヨト云フ予之ヲナシ了リテ
后チ土語ニ譯シテ酋長ニ告ケタリ次ニ双方火
ヲ地上ニ徹シ去リ劍ヲ拔テ地ヲ刺ス刀把ニ
至ル此時介者急ニ大石教塊ヲ持チ来リテ劍頭
ヲ覆フ酋長ハ立ツテ予ヲ合抱シテ予ヲ盟兄弟
也ト稱シタリ此礼式了リテコソトニ此土地ノ
服ヲ着セシメ諸口悦色ヲ以テ接待セラレ酋長
ト共ニ騎馬ニテ諸宮ヲ巡行シ衆士官ヨリ其服
從ノ礼ヲ受ク此礼ハ左手ヲ其馬鐙ニ着スルヲ
以テ之ヲ表シタリ

全氏ノ覺書ニ云フ酋長ノ戦ヲ援ケンコトヲ決シ
タレハ其情由ヲ究メサルヘカラスト左ノ教説
ヲ探得セリ支那ニ加擔シテ貢物ヲ納ル一ノ土
蕃アリテ其酋長ノ名ヲハフアレングト云フ此
者ノ配下トフアポー配下ノ者ト争擾ノコトアリ
シニ因テハフアレングヨリアアポーニ照會シ
テ配下ノ教輩ノ者ヲ死罪ニ行ワン事ヲ求ムフ
アポー之ヲ聽納セス却テ之ト戦ヒ而シテ利ア
ラス敵ハ逼ツテ莫大ノ償金ヲ要シ尚支那ノ鎮
臺ニ於テモ賣金ヲ要求スルト云フヲ名トシテ

フアポ[。]所領ノ内最良ノ地ヲ取揚タリ敵ノ首
邑ハ兵歩一日半ノ路程ヨリ遠カラス而シテ其
勢六千人ヨリ多カラス支那人一千人小銃五百
挺アリトベニヨスキハ之ヲ援ケンヲ約シバ
テラロイ及軍用品運送ノタメニ馬六十疋ヲ得
ン<sup>ベニヨスキ勢ト
酋長ノ勢ヲ云</sup>テ請ヘリ九月三日兩軍
テ敵地ニ向フ尤正午ハ暑熱堪ヘカタキ故朝間
ト夕時ニ於テ進行ス食物ハ時間ヲ定メテ米菓
實及ヒ土人ノ製シタル酒ヲ供ス馬ニハ健康ヲ
助クヘキ米ノミヲ与フ或ル空村荒野ヲ戦地ト

ナセシニ之ニ近ツキタル頃敵ハヤ騷然用意ヲ
ナスノ由ヲ聞ケリ敵ノ首邑ヲ去ル事六時行程
ノ距離ノ地ニ於テ進行ヲ止メテ一日行程後陣
ニ在ルフアポ[。]ノ勢ヲ待ツ然ルニ敵ノ小隊忽
チ現レ小戦ヲ始ムベニヨスキハ仮ニ陣營ヲ設
ケ炮ヲ備ヘテ防禦ヲナセシニ程ナク敵ノ全軍
一万人乃至一万二千人數出テ来ツテ襲撃ス
ヘニヨスキ兩度之ヲ追退ケタレトモ味方モ死
傷甚多シ而シテ再度ノ戦ニハ夜ニ入ルマテ之
ヲ追撃セリ

此時ハプアノ軍勢到着シ明朝ハ彼レ代ツテ敵
ヲ攻ントス
コントハ自身ノ軍隊ヲ三部ニ分チテ之ヲ酋長
ノ一隊毎ニ加ヘタリ而レテコントハ昨日ノ一
戦ニ因テ小銃及大炮ノ空色ノミヲ以テ敵ヲ驚
愕スルニ足ルヲ知覺セリ
此一戦大ニ利ヲ得テ敵ヲ屠戮スルヲ甚多ク終
ニ敵ノ酋長ト其女四人ヲ俘ニセリ
生俘ノ者ヲ引渡サントファポトヲ尋子レニ彼
レ戦地ノ危難ヲ避ケテ潜居シ戦者タランヨリ

ハ寧口傍觀者タランヲ欲スル小心ナル人ノ如
シコントハ之ニ生俘ヲ引渡し其身ニ害ヲ加フ
ヘカラスト戒ノ置キタリ
勝敗己ニ判レテ軍備ノ事モ既ニ了リタル故コ
ントハ帰国センヲ告ケ速ニ乗船セントス酋
長及ヒゼ子ラルハ友情ヲ厚フシ頻ニ之ニ苗ヲ
ン事ヲ懇願シタリ而レテ其恩誼ヲ感シ厚ク之
ヲ謝シタリ酋長ヨリノ贈物ハ美ナル眞珠教顆
銀八百斤金十二斤等ナリ而レテコントハ別
ニ金一百塊重量十三斤四分一アルヲ装入シタ

ル一屯ヲ其自用トシテ之ヲ贈レリ而シテゼ子
ラハハ一百廿名ノ騎馬ヲ從ヘ其要品ヲ供給シ
テコントヲ警護スヘキ旨ヲ命セラレタリ此歸
路經過スル処物景快適ニシテ其田圃ニ耕種ヲ
經ヘタルヲ見ル

コントハ海岸ニ至リ得ル所口ノ贈品其自用ノ
物ヲモ併セテ共ニ之ヲ其黨人士官婦女子ニ至
ルマテニ配分シテ一モ自カラ取ル所ナシ此ノ
大度ナル所行大ニ衆ノ心ヲ得タリ
コントノ信任セル士官合議シテ曾テコントカ

讓リ受タル領地ヲ納レ他所ニ漂泊スルヲ止メ
他邦ノ知ラサル此ノ友愛ノ地ニ居留ヲ定メシ
事ヲ勸告シテ云ク予輩流蕩ノ民歐洲ニ回ヘル
モ何ノ慰ム事カ之レアラシクハ君カ指揮
ノ下ニ在ツテ永ク此樂土ニ住セン予輩ハ人負
歐洲人ノ植民地ヲ開ク足ルヘント此言實ニ要
畧ヲ盡レタリト云フヘシ此言用ラレサリシハ
甚ハタ怪シムニ足ルナリ然リト雖トモコント
ハ從來經驗シ來ル処ニ因テ其ノ黨人ノ品行風
俗ヲ察スルニ植民地ヲ開クニ於テ其歸服又ハ

犯罪ノ件ニ於テ安堵シ難キ所アリシナリ又一
説ニハコントハ其家族ニ一會センヲ欲スル
ト或ル政府ノ保護ヲ得ンヲ希望シ衆ニ勸メ
テ共ニ飯國シタリト
終ニコントハ衆ヲ率井テ九月十二日ニ於テ港
ヲ出帆シ臺灣島ノ北地ヲ航駛シテ麻尼刺ニ向
ヒ遂ニ再ヒ此地ニ來ルヲ勿リシ也

